

【様式 02】 高大連携公開講座シラバス

* 科目 No.	06213
----------	-------

1. 開設大学	県立広島大学	開講場所 (キャンパス・施設)	庄原キャンパス			
2. 科目名	生物が「変わる」ということー育種と進化					
	学問分野	番 号	32 名 称 理学(数学, 物理, 化学, 生物, 地学など)			
3. 担当教員	福永 健二 生物資源科学部 生命環境学科生命科学コース 教授 菅 裕 生物資源科学部 生命環境学科生命科学コース 准教授					
4. 開講期間(曜日) 開講時間	令和2年7月31日(金) 13時00分～14時30分(福永) 14時40分～16時10分(菅) (90分×2回)					
個別開講日	1回目 /	2回目 /	3回目 /	4回目 /	5回目 /	6回目 /
	7回目 /	8回目 /	9回目 /	10回目 /	11回目 /	12回目 /
5. 募集定員	30人					
6. 科目内容・ 授業計画	<p>1. 育種学と進化生物学(担当: 福永) 育種学(動植物の品種改良の研究をする分野)と進化生物学はきわめて密接な関係にあります。ダーウィンの進化論という、ビーグル号での探検、特にガラパゴス諸島での様々な生物の発見が有名ですが、ダーウィンの著書「種の起源」では、ハトの品種改良についてもふれられています。変異と選抜は、育種と進化のどちらにも共通する重要な要素です。本講義では、「育種学と進化生物学」と題して、育種と進化の共通項について解説したいと思います。</p> <p>2. 遺伝子からみる生物進化の仕組み(担当: 菅) 生物は何十億年もかけて進化し、現在の多様性を生み出しました。生物の設計図はDNA上の遺伝子ですので、そこには遺伝子の大きな変化を伴ったはずですが、しかし具体的にどのような遺伝子がいつ作られ、それがどのように変化することで生物進化が成し遂げられたかという問題への挑戦は、まだ始まったばかりです。本講義では、生物進化の仕組みを遺伝子レベルで考える分子進化発生学という分野の紹介をします。</p>					
7. 受講料	無料					
8. 別途負担費用	(テキスト代・実習料等) 無し					
9. 開講条件※1 あり・ない	① 最少開講人数(3人) 定員超過の不許可は選考により決定 ② 不許可・不開講通知 (7月10日(金)以前の開講科目は3月末まで/7月11日(土)以降の開講科目は6月末まで)					
10. その他特記事項	受講者についての制限事項、事前に予習しておく資料・文献など特記すべきこと					
11. 開設大学への 交通手段	http://www.enica.jp/ から開設大学のホームページにジャンプして確認してください。					

※申込時点で原則、受講できます。ただし、開講条件で不許可・不開講があった場合は受講申込者へ通知します。